



京王電鉄株式会社  
サステナビリティファイナンス・フレームワーク

2026年2月

**KEIO**

あなたと あたらしい あしたへ —— 京王グループ



## 2.1 事業概要

京王グループは、交通業、不動産業、ホテル業、建設設備業、生活サービス業の 5 つの事業グループから構成されています。

### 交通業

京王電鉄のほか、京王電鉄バスグループ、西東京バス、京王自動車などから構成され、鉄道事業を中核に、バス・タクシーなど多様なサービスによって沿線の交通ネットワークを構築しています。鉄道事業は、新宿を起点とする京王線と、渋谷を起点とする井の頭線からなり、東京都西部を中心に神奈川県北部にもまたがる 84.7km の路線です。通勤通学路線という性格が強い一方で、世界屈指の登山客数を誇る「高尾山」など行楽地への輸送の役割も果たし、首都圏交通の大動脈の一翼を担っています。

### 不動産業

京王電鉄のほか、京王不動産、リビタ、サンウッドなどから構成されており、不動産賃貸業では、新規賃貸資産の開発や賃貸資産の管理・営業、ショッピングセンターの管理・運営、社有地の総合管理を行っています。不動産販売業では、沿線内外における新築分譲マンション事業やバリューアップ投資事業の推進・拡大に取り組んでいます。このほか、新宿駅西南口地区開発計画をはじめとする沿線拠点開発や地域と連携したエリア価値向上策に取り組むことで、魅力的な沿線づくりを目指しています。

### ホテル業

ホテル業では、グループ全体で 25 店舗、約 6,000 室のホテルを展開しています（2025 年 8 月時点）。ビジネスや観光の拠点など、多様なニーズに応えるシティホテル「京王プラザホテル」を新宿・八王子・札幌で運営しているほか、宿泊特化型ホテルとして京都・札幌に 2 店舗を展開する「京王プレミアホテル」、東京都心部を中心に計 10 店舗を展開する「京王プレッソイン」を運営しています。また、飛騨高山ではリゾートホテル「高山グリーンホテル」を運営し、お客様へ非日常体験を提供しています。

### 建設設備業

建設設備業は、京王設備サービス、京王建設、京王重機整備などから構成され、長年培った高い技術力で鉄道事業や不動産業の安全・安心を支えています。公共施設の維持・運営管理業務の実績が豊富なビル総合管理業のほか、鉄道車両の整備、改造工事を全国各地から幅広く受注している車両整備業、インフラ整備や公共施設などの土木工事からマンション・オフィスなどの建築工事まで幅広い施工実績のある建築・土木業などを展開しています。

### 生活サービス業

生活サービス業は、京王百貨店、京王ストア、京王パスポートクラブ、京王子育てサポートなどから構成され、時代に適した商品とおお客様の満足を第一に考えたサービスで、京王沿線を中心としたお客様の毎日の暮らしをサポートし、より豊かな生活への提案を行っています。その他、広告代理業や当社グループのシェアードサービスセンター各社も当セグメントに包括されています。

## 2.2 京王グループ理念

グループ経営を強化していくにあたり、当社グループの存在意義を明文化し、価値観を共有するため、2003年1月に「京王グループ理念」を制定しました。この「京王グループ理念」のもと、グループ一丸となって総合力を高め、グループとしての企業価値向上に努めています。

私たち京王グループは、  
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、  
「信頼のトップブランド」になることを目指します。  
そして、幸せな暮らしの実現に向かって  
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

## 2.3 京王グループ中期経営計画「HIRAKU2030」（2025年度～2030年度）

当社グループは、「国内で最も活気とポテンシャルがあるエリア」「日本一安全でサービスの良い持続可能な交通」という長期的にありたい姿の実現に向け、2030年代に大規模投資を本格化してまいります。その入り口となる2030年度を重要な節目と位置づけ、2025年度から2030年度までの6年間を将来に向けて経営基盤を強化する期間として、新たな「京王グループ中期経営計画（2025年度～2030年度）」を2025年5月に策定いたしました。

今回中計では「HIRAKU」をテーマに掲げ、京王グループの未来を切りひらくべく、『ハード/ソフト一体での「まちづくり」の推進』、『新たな時代に向けた交通の創造』、『事業成長と財務課題解決の両立』、『サステナビリティ経営の推進』の4つの重点施策に取り組み、企業価値の向上を目指してまいります。

### 中期経営計画のサマリ

#### ハード/ソフト一体での「まちづくり」の推進

- ・駅を核とした沿線の大規模開発の推進
- ・新しい移動需要の創出
- ・共創やオープンイノベーションも活用したにぎわいづくり



#### 新たな時代に向けた交通の創造

- ・安全・安定性の維持・向上
- ・DXを通じたオペレーションの業務改革、生産性向上
- ・サービスの向上と収益力の強化



#### 事業成長と財務課題解決の両立

- ・不動産業、ホテル業の強化
- ・建設設備業、生活サービス業の外部環境変化への対応
- ・外部パートナーとの価値創出
- ・事業別ROA管理の実行、資本コストの低減



#### サステナビリティ経営の推進

- ・企業価値向上ストーリーにつながるKPIの設定
- ・コーポレート・ガバナンス改革
- ・人財戦略の推進
- ・環境負荷軽減への対応



#### 財務目標

##### 投資計画(中計6カ年累計)

・成長投資(まちづくり・ホテル)	2,400億円
・既存更新投資	2,700億円
・販売業投資	6,300億円

##### 利益目標(FY2024→FY2030)

・営業収益	4,529億円 → 5,810億円
・営業利益	541億円 → 620億円
・EBITDA	869億円 → 1,061億円

##### 資産・資本効率性向上(FY2024→FY2030)

・連結経常利益ROA	4.8% → 4.5%以上
・連結ROE	10.6% → 9.0%以上



##### 財務健全性の維持(FY2024→FY2030)

・D/Eレシオ	1.1倍 → 1.1倍
・ネット有利子負債/EBITDA倍率	4.6倍 → 4倍台

##### 株主還元

- ・中計6カ年累計で総還元性向50%を目安
- ・安定的な配当と機動的な自己株式取得

### 3. サステナビリティ経営の推進

#### 3.1 京王グループサステナビリティ基本方針

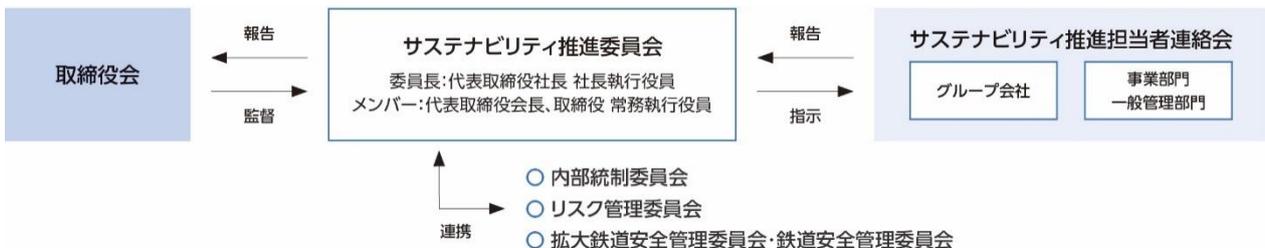
公共交通事業者としての社会的責務を果たすという使命を軸に、不動産業、ホテル業、建設設備業、生活サービス業といった幅広い事業を通じて、幸せな暮らしの実現や地域の発展を目指してきました。このようなグループの幅広い事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献し、長期的な企業価値の向上を目指す旨を明文化した、「京王グループ サステナビリティ基本方針」を策定しています。（2023年5月12日制定）

#### 京王グループ サステナビリティ基本方針

当社の交通ネットワークが広がる沿線地域を事業基盤としている私たちは、  
京王グループ理念に基づく誠実かつ環境に優しい事業活動を通じ、  
交通サービスを中心とした暮らしにおける「安全・安心」を提供し続けます。  
そして時代の変化にいち早くきめ細やかに対応しながら多様化するライフスタイルを牽引し、  
地域やパートナーと共に多世代が交流・躍動する「まちづくり」に取り組むことで、  
持続可能な社会の実現に貢献し、長期的な企業価値を向上させてまいります。

#### 3.2 サステナビリティ経営推進体制

京王グループではサステナビリティの視点を踏まえた経営を推進するため、代表取締役社長 社長執行役員が委員長を務める「サステナビリティ推進委員会」を設置しています。同委員会では、サステナビリティに関する全社方針や推進体制の整備、サステナビリティを巡るリスク・機会の把握、マテリアリティの設定、指標と目標の策定・実績把握等について審議・決定を行い、当社取締役会に報告することとしています。また、グループ共通課題についてはサステナビリティ推進担当者連絡会にてグループ会社・各部門と連携しながら対応しています。



#### 3.3 マテリアリティ

「京王グループ サステナビリティ基本方針」のもと長期的に取り組むべき主要課題として、SDGs 等のイニシアティブやガイドラインにおける社会課題の視点も取り入れた 7 つのマテリアリティ（安全・安心、「まち」との共生・発展、幸せな暮らし、デジタル社会への対応、活躍する人財、環境にやさしく、経営基盤）を設定し、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指しています。マテリアリティに紐づく社会課題を当社グループの事業を通じて解決していく中で、沿線力を向上させ、長期的に「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」であり続け、そこで生活する人の「幸せな暮らし」を実現することで、当社グループの価値を創造してまいります。

① 検討すべき社会課題の整理

② 重要度の評価

③ マテリアリティの特定

STEP1

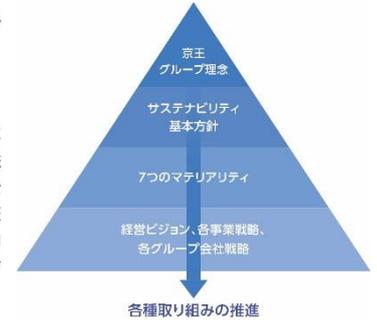
マテリアリティを特定するにあたり、京王グループ理念や京王グループ行動規範、中期経営計画での取り組みを踏まえ、SDGsやUNEPのインパクトリーダーなどのイニシアティブ・ガイドライン、ESG評価機関が重視するESG項目などの外部視点を考慮し、検討すべき社会課題を抽出しました。

STEP2

ステップ1で整理した項目の社会課題について、電鉄課長級以上の役職者と、外部有識者やステークホルダーへのアンケートを行い、「京王グループの企業価値にとっての影響」、「社会(ステークホルダー)に与える影響」の2軸で重要度を評価しました。

STEP3

ステップ2で抽出したマテリアリティ候補群について、当社グループの中心事業である鉄道事業と開発事業とがそれらの課題解決することで価値を創造しているのかを検証し、総体として京王グループの価値創造プロセスが成り立つ、ということを確認した上で7つのマテリアリティを特定しました。



マテリアリティ	目指す姿	指標	2024年度実績*	2025年度・長期目標	指標の選択理由
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本一安全で、快適なサービスの実現(鉄道)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大運転事故発生件数(鉄道)</li> <li>お客様満足度調査</li> <li>総合満足度で肯定的評価の割合(鉄道)</li> <li>ホームドア設置率</li> <li>鉄道部門が社員向け安全啓発研修(単体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>0件</li> <li>87.1%</li> <li>17%</li> <li>—</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>0件</li> <li>モニタリング</li> <li>29% 2030年代前半までに100%実施</li> <li>100%実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去から積み上げてきた鉄道事業の「安全」は追求すべき最重要課題であり、グループ全体の信頼の源泉でもある材料です。長期的かつ安全への直接的な寄与を毎年の進捗状況で示せる指標として、ホームドア設置率を追加しています。</li> <li>安全を土台として、輸送サービス全体が快適である事を定量的に把握するため、お客様満足度をモニタリングしています。</li> <li>従来から実施している鉄道部門員への教育に加え、鉄道部門以外の社員にも人材総論で掲げる安全・安心マインドを醸成していく事が、企業価値向上につながるため、その進捗を目標化しています。</li> </ul>
「まち」との共生・発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様が足を運びたくなる沿線拠点</li> <li>多世代が交流・共生し、住民が増加、企業も集まる沿線</li> <li>暮らしやすく、愛着を持ってもらえるまちづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道輸送人員</li> <li>交流人口</li> <li>ホームドア設置率</li> <li>移動需要創出数</li> <li>共創プロジェクト件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>593百万人</li> <li>約1,160万人</li> <li>—</li> <li>92件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング</li> <li>モニタリング</li> <li>新たに+約100万人創出</li> <li>2030年度までに新たに+約350万人創出</li> <li>年間100件以上着手案件がある状態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お客様が足を運びたくなる沿線」、「多世代交流・共生」といった目指す姿の一端を映し出す指標として、「鉄道輸送人員」「交流人口」をモニタリング指標としています。</li> <li>それらに寄与する京王グループの取り組みを示す指標として「移動需要創出数」を設定しています。</li> <li>外部企業等との連携・共創をはかりながら持続的な成長と新たな価値創出に取り組みする指標として「共創プロジェクト件数」を設定しています。</li> </ul>
幸せな暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>付加価値の提供によって、多世代が精神的にも満たされた、「豊かさ」や「幸せ」を感じられる暮らしを実現する</li> <li>多様化し変化するライフスタイルに対して、適切な事業・商品・サービスを提案し提供する</li> <li>人流が変化する中で新しいライフスタイルを牽引する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様とのデジタル接点</li> <li>鉄道事業における生産性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>34.2万人</li> <li>1.00</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>58.8万人/2030年度:約100万人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>京王グループのお客様とのデジタル接点を拡大していく事が事業機会増加だけでなく、幸せな暮らしにつながるという考えから指標を設定しています。</li> <li>安全性を担保のうえ、よりよいサービスを追求し持続可能な交通を目指すべく、DXを通じたオペレーションの業務改革と生産性向上の進捗をはかる指標として「鉄道事業における生産性」を設定しています。</li> </ul>
デジタル社会への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル技術を活用した自社ビジネスを通し、お客様に新たな価値を提供し続ける</li> <li>インバースジョンマインドを持った人材が、お客様やパートナーと共に成長し続け、労働人口が減少していく中でも、安全の質をはじめとするサービスの質を担保するための業務改革を推進していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性管理職比率(連結)</li> <li>男女の管理職比率の差異(単体/連結)</li> <li>男女別育児休業取得率(連結)</li> <li>年次有給休暇取得率(連結)</li> <li>エンゲージメント調査実施率(連結)</li> <li>トータルエンゲージメントスコア(単体)</li> <li>職場の心理的安全性スコア(単体)</li> <li>キャリアアップ制度への参画や新規事業創出等の挑戦を自発的に行う社員割合(単体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10.7%</li> <li>単体 95.2% 連結 45.5%</li> <li>女性 106.0% 男性 84.5%</li> <li>77.2%</li> <li>41.5%</li> <li>3.54</li> <li>3.51</li> <li>8.6%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2030年度:15% 2050年度:30%</li> <li>2030年度:単体:100% 連結:70%</li> <li>女性:100% 男性:100%</li> <li>前年度水準以上</li> <li>100%</li> <li>3.5点以上/5点満点 モニタリング</li> <li>3.5点以上/5点満点 モニタリング</li> <li>2030年度:15%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材戦略の各項目の状況把握を定量的調査によってモニタリングしています。</li> <li>個々の多様性を許容し、相互に機能し合う集団というあるべき組織の実現に向け、まずは女性活躍推進の取り組みについて目標を設定しています。</li> <li>マテリアリティとして掲げている「安全・安心」や「まち」との共生・発展「幸せな暮らし」を商品・サービスとして提供するためには、社員一人ひとりの高いエンゲージメントが必要であるとの考えから、グループ全体でエンゲージメント調査を実施してまいります。</li> </ul>
環境にやさしく	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市と自然が身近にある沿線の豊かな自然環境を維持するとともに、未来社会に豊かな環境を引き継ぐために、環境に配慮した活動を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量(Scope1, 2)(連結、鉄道)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(連結)2019年度比△17.2%</li> <li>(鉄道)2013年度比△25.4%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2030年度</li> <li>(連結)2019年度比△30%</li> <li>(鉄道)2013年度比△46%</li> <li>2050年度:実質ゼロ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動による地球環境への影響を回避するために、二酸化炭素排出量の削減を進めています。</li> </ul>
経営基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>「信頼のトップブランド」として、すべてのステークホルダーに試みて公正な企業であり続ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンスに係る研修受取率(連結)</li> <li>重大な法令違反の発生件数(連結)</li> <li>独立社外取締役比率(単体)</li> <li>女性取締役人数(単体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>98.9%(単体)</li> <li>0件</li> <li>5人/15人</li> <li>1人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100%</li> <li>0件</li> <li>2030年度:50%</li> <li>2030年度:30%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス研修等を継続的に実施することにより、コンプライアンス意識の啓発を行い、グループ全体のコンプライアンス体制の強化をはかります。</li> <li>取締役会の独立性と多様性の確保に取り組んでいます。</li> <li>透明性・公正性を確保しつつ、迅速・果敢な意思決定を行うことで、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をはかります。</li> </ul>

※赤字：2025年度に追加・変更した指標

### 3.4 脱炭素・循環型社会実現への貢献

当社グループ（連結）の非財務 KPI として CO<sub>2</sub>排出量（Scope1、2）の削減目標を設定しています。CO<sub>2</sub>排出量を 2050 年度に実質ゼロにすることを目標としており、その中間地点である 2030 年度には連結として 2019 年度比 30%、鉄道では 2013 年度比 46%の削減を目指します。

KPI CO <sub>2</sub> 排出量(Scope1、2)	
目標	2024年度実績
(2030年度) ・2019年度比△30%(連結) ・2013年度比△46%(鉄道)	連結 2019年度比 △17.2% 鉄道 2013年度比 △25.4%
(2050年度) 実質ゼロ	

連結CO<sub>2</sub>排出量



鉄道事業CO<sub>2</sub>排出量



#### 【鉄道における CO<sub>2</sub>排出量削減の取り組み】

電車の加速力や速度などに応じて、電圧や周波数を変化させながら効率よく動かす「VVVF インバータ制御装置」を 1992 年に初めて導入以降、継続的に導入を進め、2012 年に全営業車両の VVVF インバータ制御化を大手民鉄で初めて完了しました。

また、電車がブレーキをかけた際に発生する回生電力を駅設備で使用される電力に変換して、駅の照明や空調、エスカレーターなどに供給する駅舎補助電源装置を導入しています。現在、東府中駅、高幡不動駅、北野駅、めじろ台駅、若葉台車両基地に導入しています。



#### 【電気バス・燃料電池バスの運行】

京王グループのバス事業では、電気バスおよび燃料電池バスを導入しています。電気バスは、バスに搭載したバッテリーに貯めた電気でモーターを駆動させ、CO<sub>2</sub>等の排気ガスを排出せずに行きするほか、バス自体が大型の電源施設となり、災害時などに電気を供給する機能も有しています。燃料電池バスは、水素と大気中から取り込んだ酸素の化学反応により発電した電気をモーターの駆動に使用します。いずれも環境にやさしいバスであり、滑らかな加速や静粛性を兼ね備えています。



### 【環境配慮型リノベーションファンドの組成（リビタ）】

リビタでは、株式会社日本政策投資銀行および DBJ アセットマネジメント株式会社と、新たにリノベーションマネジメントの仕組みを導入した環境配慮型リノベーションファンドを組成し、運用を開始しています。当ファンドは、リノベーションノウハウを持つリビタと、金融と不動産に多様なチャネルを持ち、「DBJ Green Building 認証※1」など独自の環境認証を持つ DBJ グループが協業することにより、老朽化した賃貸物件を環境配慮型不動産としてバリューアップして市場へ再流通させることを目的としています。リノベーションマネージャー※2 による良質な住戸を提供し続ける仕組みを導入することで、「リノベーション×ESG 投資」によるサステナブルな社会の実現を目指します。

※1 環境・社会への配慮がなされた不動産とその不動産を所有・運営する事業者を支援する取り組みとして 2011 年 4 月に DBJ が創設した認証制度

※2 ファンドの保有物件に対して、建物の改修・バリューアップのサポートを継続的に行う役割を指します。

### 【実質再生可能エネルギーの導入】

京王グループにて所有または運営管理する「京王プラザホテル（新宿）」「京王プレッソイン」全店舗、「京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター」では、使用する電気の全てを実質再生可能エネルギー由来の電力に切り替えています。（2025 年 9 月現在）



### 【「森林×A C Tチャレンジ 2025」グランプリ受賞】

当社では、北海道に所有する森林（約 300ha）の整備や、「京王水源の森」における森林保全作業への参加、「京王あそびの森 HUGHUG <ハグハグ>」や高尾山口駅での多摩産材の活用、「高尾の森 親子森林体験スクール」での環境プログラムの実施など、環境保全や環境意識向上につながる活動を行ってきました。この度、これらの取り組みが高く評価され、林野庁が主催する「森林×A C Tチャレンジ 2025」において、グランプリ（農林水産大臣賞）を受賞しました。なお、鉄道事業者による受賞は全国初となります。



※「森林×A C Tチャレンジ」は森林の適切な整備・保全に貢献する企業や団体等の優れた取り組みを顕彰する制度です。

当社 web サイトや統合報告書もあわせてご覧ください。

<https://www.keio.co.jp/company/sustainability/>

## 4. サステナビリティファイナンス・フレームワーク

本フレームワークは以下の原則等に基づき策定しており、これらの原則等との適合性に対するセカンド・パーティ・オピニオンを株式会社日本格付研究所（JCR）より取得しております。

- ・ グリーンボンド原則 2025（ICMA）（以下「GBP」）
- ・ グリーンローン原則 2025（APLMA, LMA, LSTA）
- ・ グリーンボンドガイドライン 2024 年版（環境省）
- ・ グリーンローンガイドライン 2024 年版（環境省）
- ・ ソーシャルボンド原則 2025（ICMA）（以下「SBP」）
- ・ ソーシャルローン原則 2025（APLMA, LMA, LSTA）
- ・ ソーシャルボンドガイドライン 2021 年版（金融庁）
- ・ サステナビリティボンドガイドライン 2021（ICMA）

本フレームワークに基づき、充当するプロジェクトに応じて、下記いずれかの債券もしくはローンによる資金調達を行います。

種類	内容
グリーンファイナンス	グリーン適格プロジェクトのみを資金使途とする資金調達
ソーシャルファイナンス	ソーシャル適格プロジェクトのみを資金使途とする資金調達
サステナビリティファイナンス	グリーン適格プロジェクト及びソーシャル適格プロジェクト双方を資金使途とする資金調達

※以降では、グリーンファイナンス、ソーシャルファイナンス、サステナビリティファイナンスを総称して「サステナビリティファイナンス等」とします。

### 4.1 調達資金の使途

当社により発行／実行されるサステナビリティファイナンス等の調達総額と同額が新規ファイナンスまたはリファイナンスとして、新規または既存の適格プロジェクトへ充当されます。なお、既存プロジェクトへの充当の場合は、サステナビリティファイナンス等の発行／実行から原則として3年以内に実施したプロジェクト（ただし、グリーンビルディングに関するプロジェクトは除く）とします。

#### 【グリーン適格クライテリア】

ICMA GBP カテゴリー および 関連するマテリアリティ	適格クライテリア	プロジェクト例
<b>クリーン輸送</b> > 「まち」との共生・発展 > 幸せな暮らし > 環境にやさしく	・ 電気を動力とする車両の新造・改造・更新に係る投資	・ 省エネ性能が向上した新型通勤車両 2000 系の導入 ・ 新型 VVVF インバータ制御装置への更新 ・ 自動運転設備を活用したワンマン運転の実施に向けた車両の改修、更新
	・ 鉄道運行に必要な設備投資	・ 自動運転設備を活用したワンマン運転の実施に向けた設備の改修、更新 ・ 駅の移設、改良工事（鉄道運行関連施設のバリアフリー整備を含む） ・ ホームドア、転落防止固定柵の設置、更新 ・ 踏切障害物検知装置の設置、更新

ICMA GBP カテゴリー および 関連するマテリアリティ	適格クライテリア	プロジェクト例
<b>気候変動への適応</b> > 安全・安心 > 環境にやさしく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄道関連設備の自然災害対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄道施設及び沿線の法面補強による土砂災害対策</li> <li>・ 地下区間の浸水対策</li> </ul>
<b>グリーンビルディング</b> > 「まち」との共生・発展 > 幸せな暮らし > 環境にやさしく	環境性能の高い建物の新築、改修 以下のいずれかの建物認証を取得、 将来取得、更新予定の建物の建設又は 内装・設備の工事若しくは更新に係る 費用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ LEED : Silver 以上 (LEED BD+C の場合は v4 以降)</li> <li>・ BREEAM : Very good 以上 (BREEAM New Construction の場合は v6 以降)</li> <li>・ CASBEE : B+ランク以上 (自治体版は含まない)</li> <li>・ DBJ Green Building 認証 : 3 つ星以上</li> <li>・ ZEB/ZEH-M/ZEH (nearly, ready, oriented を含む)</li> <li>・ BELS 認証 (2016 年基準) : 3 つ星以上 (新省エネ基準における既存不適格 (工場等 (物流倉庫含む) : BEI=0.75 超え) ではないこと)</li> <li>・ BELS 認証 (令和 6 年度基準) における以下のレベル                ✓ 非住宅 : レベル 6~レベル 4                ✓ 再生可能エネルギー設備がある住宅 : レベル 6~レベル 3                ✓ 再生可能エネルギー設備がない住宅 : レベル 4~レベル 3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京王品川ビル (CASBEE-不動産 : S ランク)</li> <li>・ 京王調布小島町ビル (CASBEE-不動産 : S ランク)</li> <li>・ 京王府中 1 丁目ビル (CASBEE-不動産 : S ランク)</li> </ul>

### 【ソーシャル適格クライテリア】

ICMA SBP カテゴリー および 関連するマテリアリティ	適格クライテリア	プロジェクト例
<b>手ごろな価格の基本的インフラ設備</b> > 安全・安心 > 「まち」との共生・発展 > 幸せな暮らし	鉄道事業の安全・安心確保のための取り組み 【対象となる人々】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者、障がい者等を含む、鉄道をご利用される全てのお客様</li> <li>・ 沿線地域に住む人々</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連続立体交差事業による交通渋滞・事故の軽減</li> <li>・ ホームドア・転落防止固定柵の設置による安全性向上</li> <li>・ 耐震補強</li> <li>・ 踏切障害物検知装置の設置、更新</li> </ul>

ICMA SBP カテゴリー および 関連するマテリアリティ	適格クライテリア	プロジェクト例
<b>必要不可欠なサービスへのアクセス</b> <b>社会経済的向上とエンパワーメント</b> ▶ 「まち」との共生・発展 ▶ 幸せな暮らし	当社沿線地域の活性化や利便性向上に貢献するための取り組み  【対象となる人々】 ・ 高齢者、子育て世代 ・ 沿線地域に住む人々	・ 京王多摩川駅周辺の新たなまちづくりの推進における、認可保育園、福祉・医療施設の建設・設置
<b>必要不可欠なサービスへのアクセス</b> ▶ 「まち」との共生・発展 ▶ 幸せな暮らし	バリアフリーへの取り組み  【対象となる人々】 ・ 高齢者、障がい者等の体の不自由な人々	・ 大型フリースペースを備えた新型通勤車両 2000 系の導入 ・ 駅や施設におけるバリアフリー設備の導入

### 【プロジェクト例】

#### ① 新型通勤車両「2000 系」を導入

従来型車両より環境性能を高める施策としてフル SiC 素子を用いた新型のVVVF インバータ制御装置を搭載（当社 7000 系車両と比較し約 20%の省エネ性能向上）したほか、子育て世代やシニア世代など、年齢や性別、また目的を問わず、あらゆるお客様が安全・快適に鉄道をご利用いただけるよう、5 号車に当社初となる大型フリースペースを設置します。



#### ② 京王線・井の頭線全駅へのホームドア整備の推進

お客様の安全性と列車運行の安定性確保の観点から、ホームドア整備を推進しており、井の頭線は 2020 年代中頃、京王線は 2030 年代前半にホームドアの全駅整備を完了する予定です。



#### ③ 笹塚駅～仙川駅間における連続立体交差事業の推進

笹塚駅～仙川駅間約 7.2km の区間を高架化することにより、25 か所の踏切を除却すると共に、7 か所の都市計画道路を立体化し、あわせて側道を整備する事業を推進しており、交通渋滞の解消や踏切事故の防止、地域の南北一体化などの効果が期待されます。※連続立体交差事業は東京都が事業主体となり、道路の整備の一環として施行する都市計画事業です。



#### ④ 京王多摩川駅前開発プロジェクト「itonami」の推進

京王相模原線京王多摩川駅徒歩 1 分に位置する約 2.8ha の敷地において、土地区画整理事業と併せて A 棟・B 棟・C 棟の計 3 棟の建物を開発します。本開発では、賃貸住宅、分譲住宅、商業店舗、保育園、調布市福祉施設など多様な用途を計画し、「住み継がれる、暮らし継がれる街」を目指して、街に根差し、完成して終わりではなく、10 年後 20 年後それ以降も街の魅力が向上していくような持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



## 4.2 プロジェクトの評価及び選定のプロセス

適格プロジェクトの選定においては、経理部が中心となり、経営企画部サステナビリティ推進担当の助言を受けながら、適格クライテリアへの適合状況を確認し、経理部担当役員が最終承認を行います。

また、すべての候補となる適格プロジェクトについては、事業実施の所在地の国・地方自治体にて求められる環境関連法令等の順守、必要に応じた環境への影響調査の実施、地域住民への十分な説明の実施等を適確に行っております。

## 4.3 調達資金の管理

経理部が調達した資金について、適格プロジェクトへの充当および管理を行います。経理部は、調達金額と同額が適格プロジェクトに充当されるよう定期的に内部会計システムを用いて追跡管理し、経理部長が確認を行います。なお、未充当資金は現金または現金同等物で管理します。

## 4.4 レポーティング

調達された資金の充当状況、環境および社会への効果（インパクト）として当社が定めた内容について、調達資金の全額が充当されるまでの間、合理的に実行可能な限りにおいて、年1回、当社ウェブサイトで開催または貸し手に対して報告（ローンの場合のみ）します。

### 資金充当レポーティング

- ① 資金の充当計画
- ② 充当した資金の額
- ③ 未充当資金の概算額、充当予定時期および未充当期間の運用方法
- ④ リファイナンスに充当した場合の概算額または割合

### インパクト・レポーティング

#### <グリーンプロジェクト>

ICMA GBP カテゴリー	レポーティング項目
クリーン輸送	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 車両投入実績</li><li>・ 鉄道関連設備における維持・改修・更新工事の内容</li><li>・ 想定 CO<sub>2</sub>排出削減量</li><li>・ 単位輸送量あたりの CO<sub>2</sub>排出量</li></ul>
気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"><li>・ プロジェクト概要</li><li>・ 法面補強・浸水対策工事等を実施した箇所数</li><li>・ 法面補強・浸水対策工事等によって期待される安全向上効果</li></ul>
グリーンビルディング	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 物件概要</li><li>・ 取得した認証の種類とランク</li><li>・ 想定 CO<sub>2</sub>排出削減量</li></ul>

<ソーシャルプロジェクト>

ICMA SBP カテゴリー	適格クライテリア	レポート項目		
		アウトプット	アウトカム	インパクト
手ごろな価格の 基本的インフラ設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄道事業の安全・安心確保のための取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクトの概要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄道輸送人員数</li> <li>・ 交流人口</li> <li>・ 各駅の日平均乗降人員数</li> <li>・ 踏切削減数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての人が安全・安心に利用できるモビリティサービスの実現</li> </ul>
必要不可欠なサービスへのアクセス 社会経済的向上とエンパワーメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当社沿線地域の活性化や魅力向上に貢献するための取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクトの概要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周辺開発をした各駅の日平均乗降人員数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活性化や課題解決、地域とのコミュニケーション強化</li> </ul>
必要不可欠なサービスへのアクセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バリアフリーへの取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクトの概要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車両投入実績</li> <li>・ バリアフリー設備の導入駅数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての人が安全・安心に利用できるモビリティサービスの実現</li> </ul>

以上